

# 最近の管内経済概況

(2020年7月の経済指標を中心として)

～ **新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるが、一部に下げ止まりの動きがみられる** ～

最近の動きをみると、

- 生産活動は、下げ止まりの動きがみられる。
- 個人消費は、一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる。
- 観光は、一部に下げ止まりの動きがみられる。
- 公共工事は、減少している。
- 住宅建設は、低下している。
- 民間設備投資は、減少している。
- 雇用動向は、弱い動きがみられる。
- 企業倒産は、件数、負債総額とも減少している。

全体として、管内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるが、一部に下げ止まりの動きがみられる。

なお、先行きについては、新型コロナウイルス感染症の影響、国際経済の動向等を十分注視する必要がある。

※ 下線部は、前月から判断を変更した部分。

2020年9月14日

照会先 : 経済産業省 北海道経済産業局  
総務企画部 企画調査課

T E L : 011-709-2311 内線 2525

E-mail : hokkaido-kikakuchosa@meti.go.jp

U R L : <https://www.hkd.meti.go.jp>

# 管内経済概況判断の推移

(2020年9月現在)

発表月	2020年4月	5月	6月	7月	8月	9月	前月との判断比較
総括判断	足踏み状態となっており、 <u>足下で新型コロナウイルスの影響がみられる</u>	新型コロナウイルス感染症などの影響により、 <u>弱い動きとなっている</u>	新型コロナウイルス感染症の影響により、 <u>厳しい状況となっている</u>	新型コロナウイルス感染症の影響により、 <u>厳しい状況となっている</u>	新型コロナウイルス感染症の影響により、 <u>厳しい状況にあるが、一部に下げ止まりの動きがみられる</u>	新型コロナウイルス感染症の影響により、 <u>厳しい状況にあるが、一部に下げ止まりの動きがみられる</u>	
生産活動	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	<u>急速に低下している</u>	急速に低下している	<u>下げ止まりの動きがみられる</u>	下げ止まりの動きがみられる	
個人消費	<u>一部が弱い動きとなっている</u>	弱い動きとなっている	<u>一部が急速に低下している</u>	一部が急速に低下している	<u>一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる</u>	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	
観光	<u>悪化しつつある</u>	<u>悪化している</u>	悪化している	悪化している	<u>一部に下げ止まりの動きがみられる</u>	一部に下げ止まりの動きがみられる	
公共工事	増加している	<u>減少している</u>	増加している	<u>減少している</u>	増加している	<u>減少している</u>	
住宅建設	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	<u>低下している</u>	低下している	低下している	低下している	
民間設備投資	増加している	増加している	<u>おおむね横ばいとなっている</u>	<u>減少している</u>	減少している	減少している	
雇用動向	足踏み状態となっている	<u>弱い動きがみられる</u>	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	
企業倒産	件数は同数、負債総額は減少している	件数、負債総額とも減少している	件数、負債総額とも増加している	件数、負債総額とも減少している	件数、負債総額とも減少している	件数、負債総額とも減少している	

※下線部は、前月から判断を変更した部分。

※「新型コロナウイルス」の表現は、2020年5月の発表から「新型コロナウイルス感染症」に統一。

上方修正 据え置き 下方修正

# 生産活動 ～ 下げ止まりの動きがみられる ～

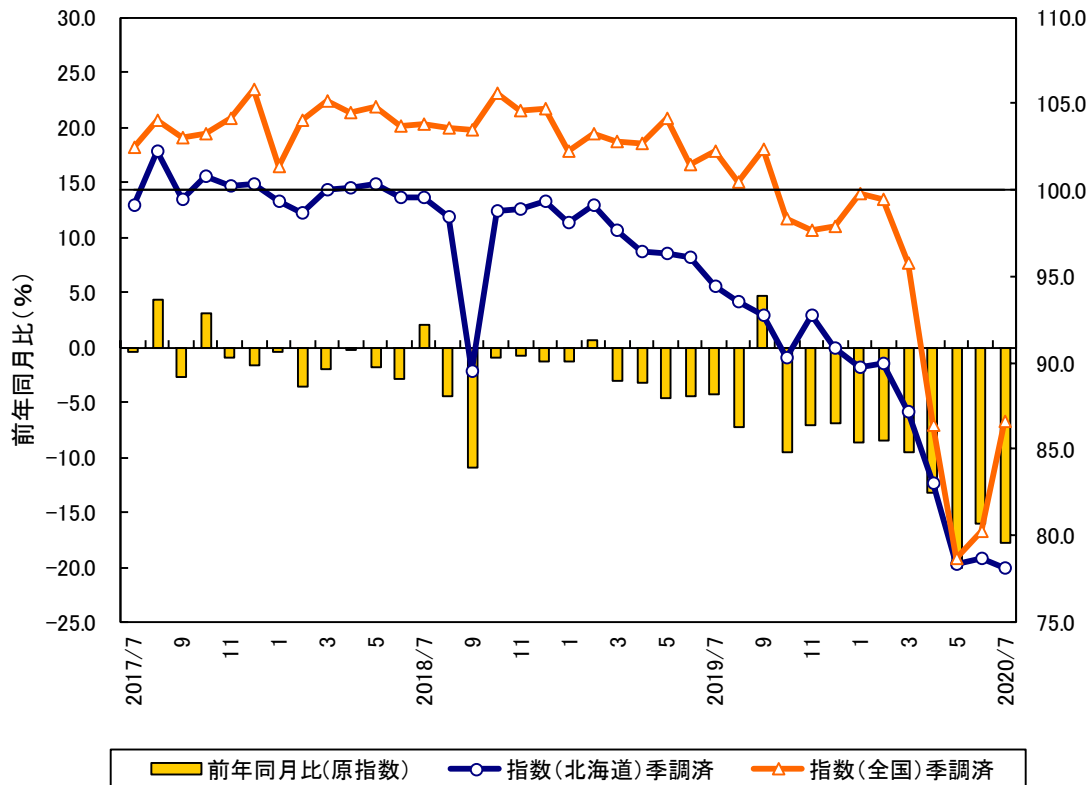
7月の鉱工業生産は、前月比▲0.8%と2か月ぶりに低下した。  
 低下業種は、鉄鋼業など6業種となった。上昇業種は、輸送機械工業など9業種となった。

<7月>	
季節調整済指数	
北海道(速報)	78.1(前月比▲0.8%)
全国(速報)	86.6(前月比+8.0%)

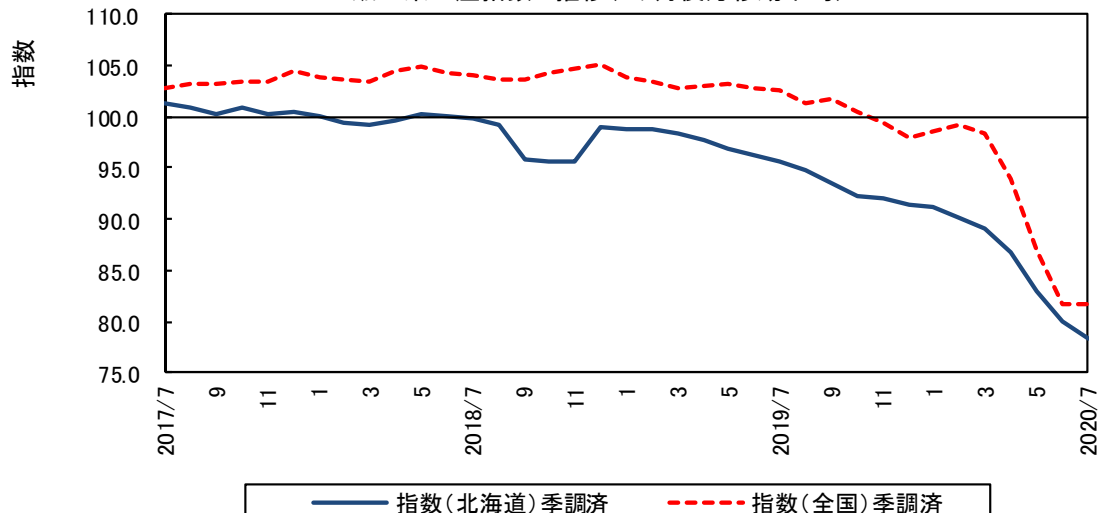
## 【ヒアリング内容】

- ・大規模な改修のため、鋼半製品の生産が減少した。(鉄鋼業)
- ・定期修理のため、石油製品の生産が減少した。(化学・石油石炭製品工業)
- ・外食自粛の影響で、家庭向けの需要が伸びており、塩蔵品の生産が増加した。(食料品工業)
- ・自動車部品の生産は、北米・欧州向け減産の影響が小さくなり、回復してきた。国内外の需要が好調なことから、今後も回復傾向が続く見通し。(輸送機械工業)

鉱工業生産指数(2015年=100.0)



鉱工業生産指数の推移(3ヶ月後方移動平均)

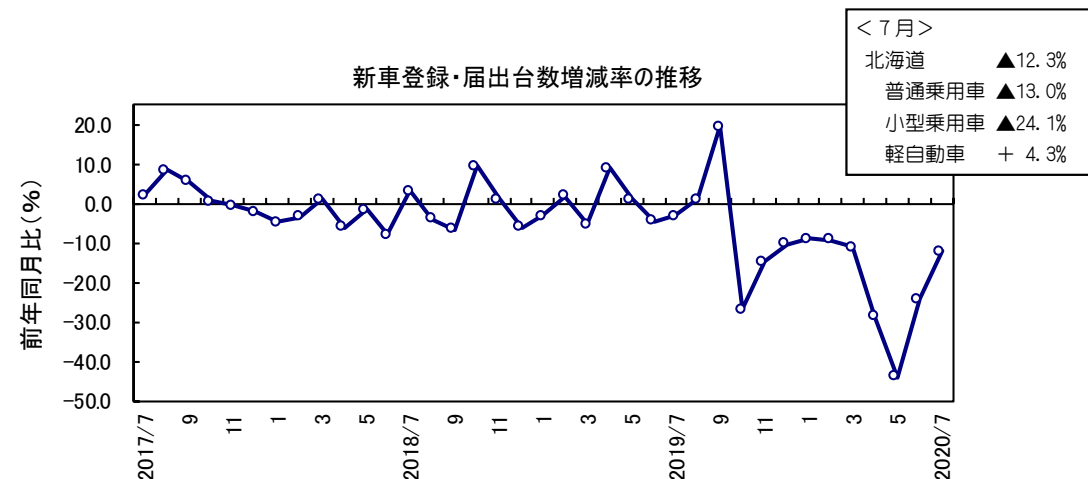
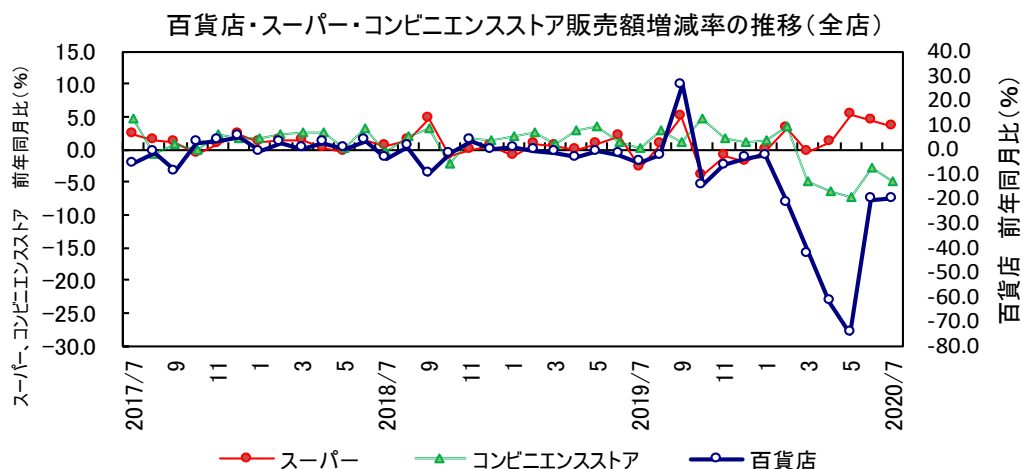


(資料：経済産業省、北海道経済産業局)

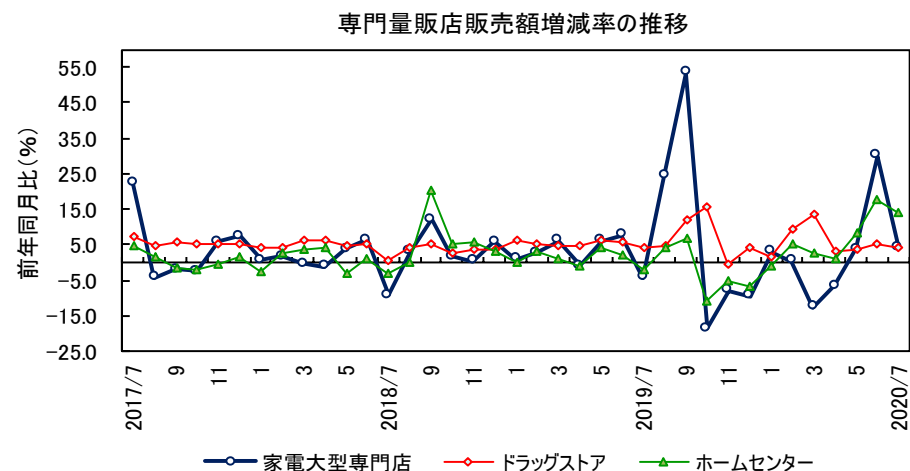
# 個人消費 ～ 一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる ～

7月の個人消費は、百貨店、コンビニエンスストア、新車販売は前年を下回り、他の業態は前年を上回った。

- 百貨店は、外出の自粛傾向などにより、前年同月比▲20.0%と10か月連続で前年を下回った。
- スーパーは、内食需要の継続から、飲食料品が好調だったことなどにより、同+3.4%と4か月連続で前年を上回った。
- コンビニエンスストアは、同▲4.9%と5か月連続で前年を下回った。
- 家電販売は、同+4.1%と3か月連続で前年を上回った。ドラッグストアは、同+4.2%と8か月連続で前年を上回った。ホームセンターは、同+14.1%と6か月連続で前年を上回った。
- 新車販売は、同▲12.3%と10か月連続で前年を下回った。



(資料：(一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車協会連合会)



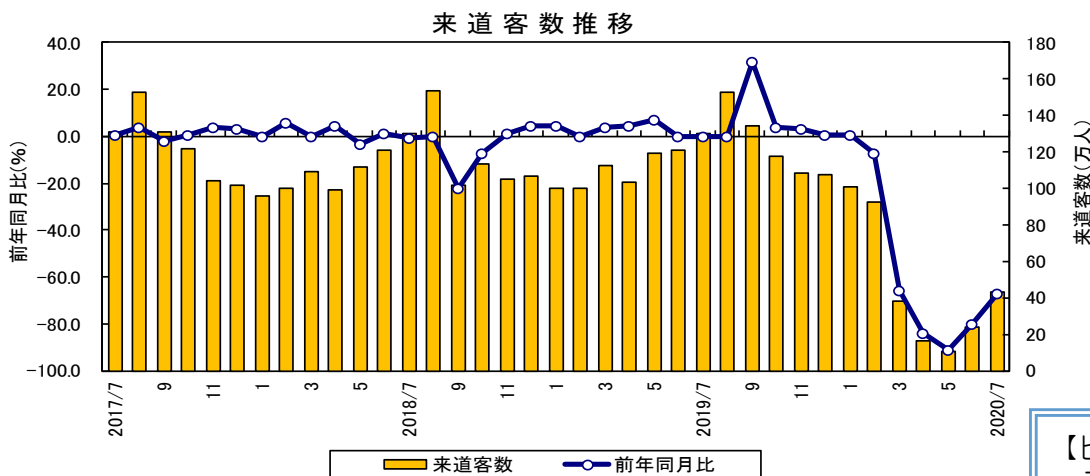
(資料：北海道経済産業局)

## 【ヒアリング内容】

- 「三密」を回避するため、集客のための催事などの開催を自粛していることから、客足の回復が遅れている。(百貨店)
- 内食需要の伸びは、一時期に比べるとやや落ち着いてきているものの、食料品の売上は、依然として高い水準を維持している。(スーパー)
- 夏は年間の中でも売上が伸びる時期だが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で人の動きが鈍く、本来の7月らしい売上の伸びがみられなかった。(コンビニエンスストア)
- 前半は大型家電中心に好調な動きだったが、最終週は前年の猛暑の反動などにより、エアコンなど夏物家電の売上が大きく落ちた。(家電大型専門店)
- 新車販売は、中止していた販売促進イベントも開始され、新型軽自動車などの売上は伸びている。一方で、現状の回復傾向については、これまでの受注分の納車によって支えられていることなどもあり、先行きは一進一退である。(自動車販売)

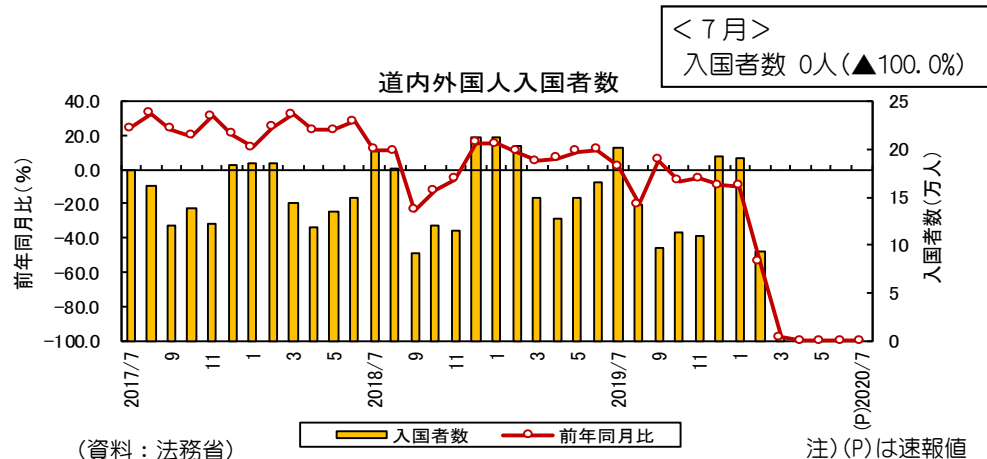
# 観光 ～ 一部に下げ止まりの動きがみられる ～

7月の来道客数は、前年同月比▲66.9%と6か月連続で前年を下回った。また、道内外国人入国者数は、0人で同▲100.0%と10か月連続で前年を下回った。



<7月> 来道客数 429,713人 (▲66.9%)  
 ※北海道外から航空機(国内線)、JR(北海道新幹線)、フェリーを利用して来道した旅客数。  
 ※道内で入国手続きを行った外国人数は含まない。

(資料：(公社)北海道観光振興機構)



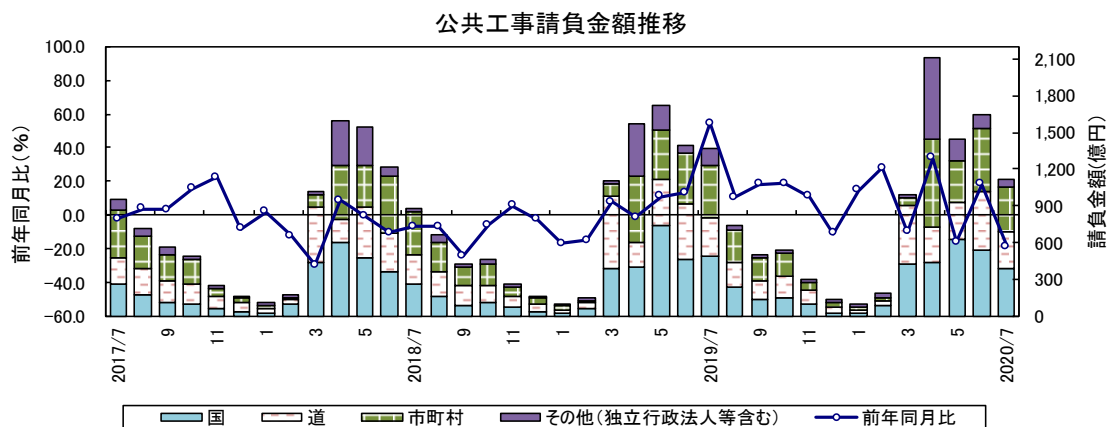
(資料：法務省)

## 【ヒアリング内容】

- ・7月は、各種の旅行キャンペーンにより道内客数は前年を上回ったが、道外・海外客数が戻らず、全体では前年を下回った。(関係機関)
- ・8月のお盆期間中は道内客を中心に宿泊客が増えたが、その後は大幅に減っている。(関係機関)

# 公共工事 ～ 減少している ～

7月の公共工事請負金額は、国、道、市町村の全てで前年を下回り、前年同月比▲18.6%と2か月ぶりに前年を下回った。



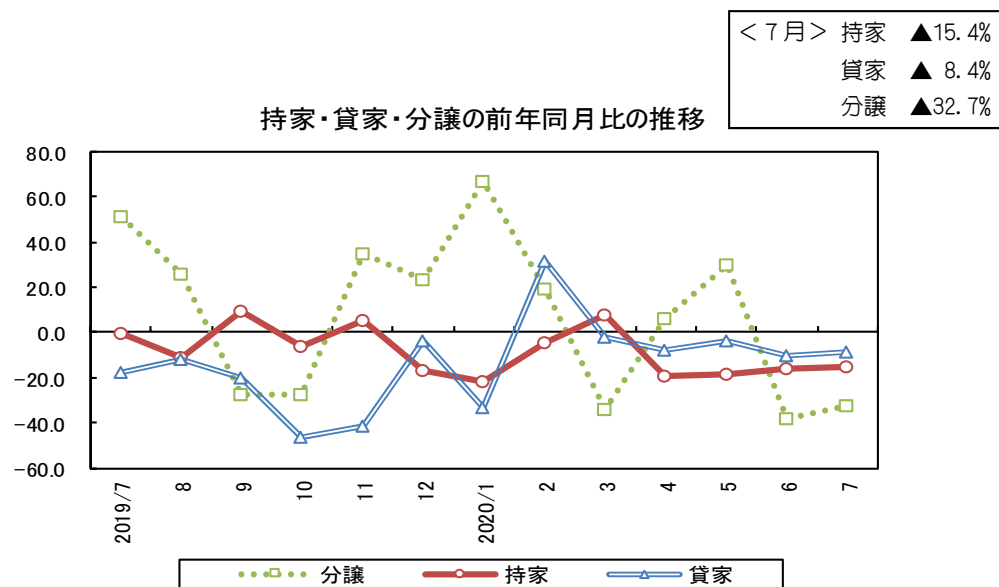
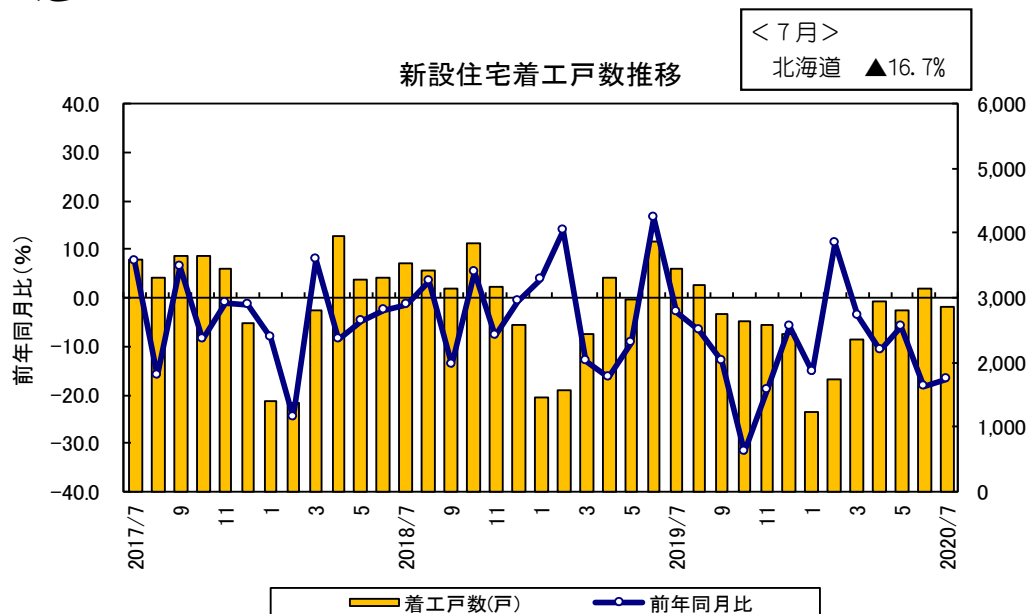
<7月>  
 北海道 ▲18.6%  
 (内訳)  
 国 ▲20.4% 道 ▲4.1% 市町村 ▲15.1% その他 ▲56.7%

(請負金額は国、道、市町村、独立行政法人等の合計額)

(資料：北海道建設業信用保証(株)ほか2社)

# 住宅建設 ~ 低下している ~

7月の新設住宅着工戸数は、持家、貸家、分譲の全てで前年を下回り、前年同月比▲16.7%と5か月連続で前年を下回った。



(資料：国土交通省)

# 民間設備投資 ~ 減少している ~

2020年度の設備投資計画は、全体で前年度比▲5.3%と4年ぶりに前年度を下回る計画となっている。

日銀短観の設備投資動向

2020年7月1日発表

	2019年度	2020年度計画
北海道	+ 14.6%	▲ 5.3%
製造業	+ 17.7%	+ 15.7%
非製造業	+ 13.2%	▲ 15.6%
全国	▲ 0.6%	▲ 0.8%

注) 土地投資額を含み、ソフトウェア投資額、研究開発投資額を除く。

注) 北海道は、電気・ガスを除くベース。

(資料：日本銀行札幌支店)

法人企業景気予測調査(北海道・設備投資)

2020年6月11日発表

	2019年度	2020年度
全産業	+ 17.8%	▲ 5.7%
製造業	+ 27.1%	▲ 11.7%
非製造業	+ 13.6%	▲ 0.9%

※数値は対前年比増減率。

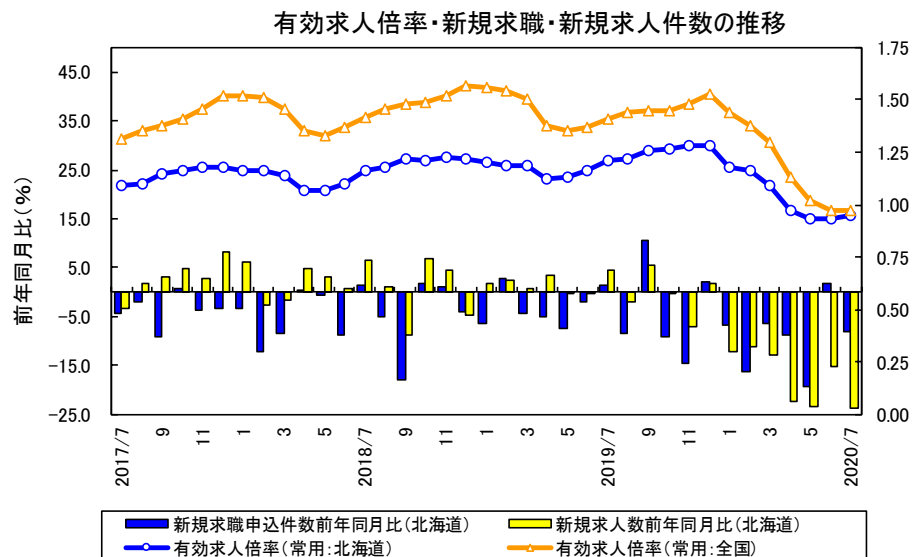
注) ソフトウェア投資額を含み、土地購入額を除く。

(資料：北海道財務局)



# 雇用動向 ～ 弱い動きがみられる ～

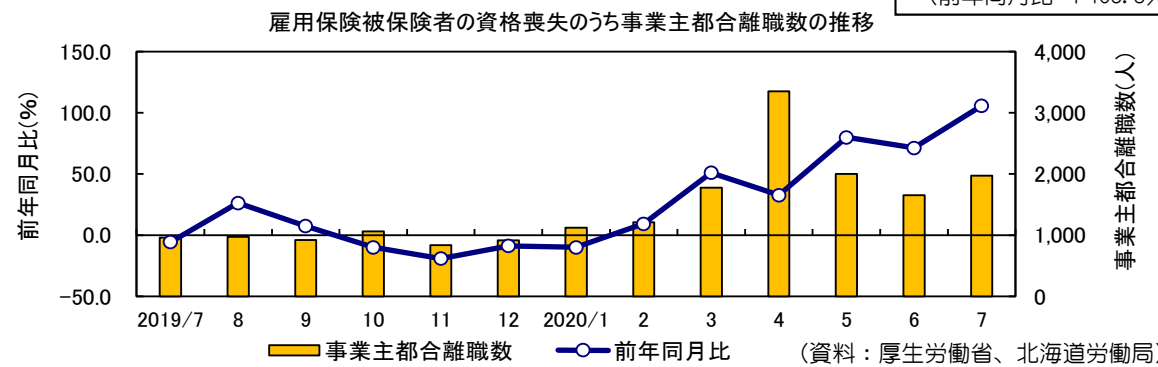
7月の有効求人倍率は、0.95倍と前年同月差0.26ポイント減少し、7か月連続で前年を下回った。



< 7月 >

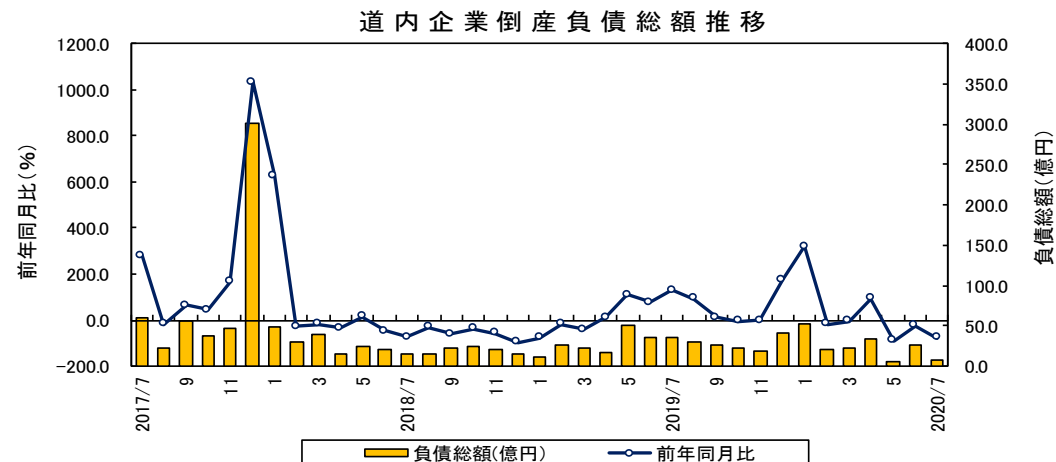
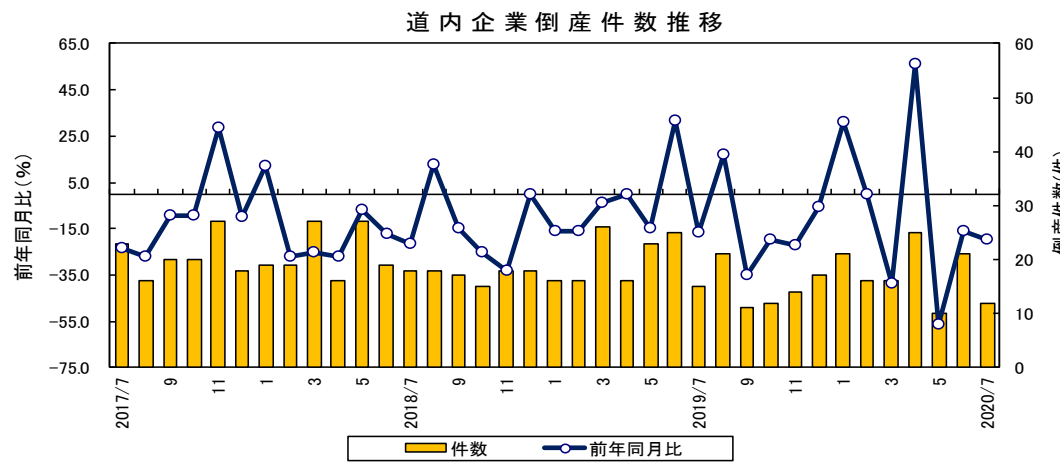
北海道	有効求人倍率(常用)	0.95倍
	新規求人数(前年同月比)	▲23.6%
	新規求職申込件数(前年同月比)	▲8.0%
全国	有効求人倍率(常用)	0.97倍

< 7月 >  
事業主都合離職数 1,974人  
(前年同月比 +105.8%)



# 企業倒産 ～ 件数、負債総額とも減少している ～

7月の倒産件数は12件で前年同月比▲20.0%（3件減）、また、負債総額は8.3億円で同▲76.6%と、いずれも3か月連続で前年を下回った。



(資料：(株)東京商工リサーチ)